

「マ○であなたにお金くれんの？」



お金目的だったのに
気持ち良いセックスを身体に覚えさせられて
最後には自らおじさんチ 求めてるようになったちゃう
白ギャルちゃんといっしょ



ネットで『おじさん募集』をしていた彼女に声をかけた
もちろんおじさんとはセックスの見返りにお金をくれる人のこと



こちらはメールで金額を伝えてOKだったら会ってもらえる
特殊なプレイなどの要望の有無についても答えてくれるが
この子の場合「お金によるけどだいたいの事は大丈夫」と書いてた

「ちよつといいかな、君がおじさん募集してた子だよね」
「・・・そうだけど、じゃあおじさんが○○さんって事でいいんだよね
メール見たけどマジであんなくれるの？」



サイトの写真で見た通り・・・いやそれ以上に可愛い
今日はアタリだな

「可愛かったから追加でこれくらい出すよ」

「ふーん、褒めても何も出ないけど追加分はサービスするかも」
「期待してるよ」



「つてかさ、寒いからいっかいファミレス入らない？」

「いいよ・・・あつ、さっそくで悪いけど」

「なに？」

ファミレスで
「今履いてるパンツを使って手コキして」とお願いした
「おじさんこういうの好きなんだ、変わってるねえ」

?

ピタッ

シュッ

めっちゃ喜んでる
ちよっと私にはわからないかな





!!!

ガ
ビ
ン

ガ
ビ
ン
ガ
ビ
ン

~~~~~



うわっすごい出てる・・・こんな出す人初めて見た

ビュ~~~~~

じー！

ギュッ

ぐゅ

「ふう気持ち良かったよ」

「それは良いんだけどホテル行く前にパンツは買ってね」

「うん」





「おじさん性欲強そうだし一回抜いとく？」

「うん、頼むよ」





「ふう。・ありがとう  
ベツトに行ったら君もたっぷり  
気持ちよくさせるからね」

「私の事は気にしないでいいよ  
おじさんが気持ちよくなればそれでいいから  
あっ、もちろんゴムつけてね」  
「じゃあ君を愛撫してからお願いしようかな」  
「?。・。わかった」  
（すぐやりたいって感じじゃないのかな?）





シャワーを浴びてからある程度時間が経った

ずっといぢられてる・・・  
このおじさん上手いけどいつまでしてるんだる



もう気持ち良いとこまでバレちゃってるし・・・  
あっ・・・また・・・っ！

ズグ

ズグ

ヌグ

ヌグ

ドク

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡





「気持ち良かった？」  
「.....まあまあかな」



ベットに来てからもう5回もイカされた  
何が目的なんだろう

さらに時間が経ち何度もイカされた後





お腹の下がすっごいじんじりする  
・ハメてほしい  
奥までねじ込んで乱暴にズボズボしてほしい

「そろそろしようかな」  
きた。。。。









・・・足りない

敏感になってるから少し良いけど  
イクには全然足りない  
さつきからずっとこんな調子

奥まで挿れてくれれば絶対気持ちよくなれるのに  
もっとうしてほしいのに・・・





「じゃあそろそろ終わっちゃうか」  
えっ。。。そんな。。。



「もっとしたいけど」ムが無くなっちゃったからね、残念だなあ」  
。。。。

終わった後  
おじさんが余韻を楽しみたいと言ったので  
しばらく付き合う事にした

おじさんは私の胸を触りながらずっとしゃべってる  
私は一応返事をするけど  
話が頭に入ってこない  
続きがした





胸の触り方もやらしくて上手い  
あっ、胸だけでイク・・・イッ・・・



「あ……」  
イケなかった

ポタッ

イ

違う、わざと手を止めて  
イかせてくれなかったんだ  
……言わせようとしてる  
我慢できないって知ってるから

「さて、飲み物でも持って来ようかな、君は何飲む？」  
「……あのさ」

「なんだい」





「お金もらっておいでアレなんだけど、その  
もうちよっとしてほしいんだけど・・・」

「ゴム無いよ？」

「・・・生でいいから」

カァ~~~~

「いの？」

「うん」

「そっか、じゃあ続きしようね」

「うん・・・」

モッ~~~~

モッ~~~~

ト~~~~

生でヤリはじめてからは一切焦らさなかった  
ただ気持ち良くなる為だけに  
何度も奥を突いてくる

私も私で待ち望んだものをもらい  
ずっと盛った犬みたいで喘いで  
いつのまにか気を失っていた













目を覚ました時にはおじさんは居なかったが  
約束のお金と手紙が置いてあった

「今度また続きをしようね」

またこんな事されたら  
普通のセックスに戻れなくなる

・  
・  
・今度っていつだろう





おじさんから連絡がきて  
忙しいけど会いたいと家に呼ばれた  
お金はいつも通り結構出してくれるらしい  
・・・ぶっちゃけお金はもういいんだけど



先日の事を思い出して昨日は眠れなかった



「いらっしやい、ごめんねどうしても会いたくて」  
「あっうん別にいいけど、あのさ」



「ああもちろんお金は」  
「いやそうじゃなくて・・・ああいや何でもない」



こっちとしては  
おじさんとやりたいだけなんだけど

それはそれとして  
今日は危険目だから  
絶対に生でするのは断らなきゃ  
でも今言うのエッチしてくれないかもしれないし。。。うーん

。。。



絶対にちゃんと言う

ちゃんと言うけど  
その時になつたらでいいか



またおじさんのペースに乗せられて生ハメを許しちゃった  
こんなはずじゃなかったのに



ぎゅん

ぶっぶっ

ぎゅん

おっおっ♡

おっ♡



言わなきやいけないのに・・・  
うあ・・・そこすごくキモチイイ・・・

「うっ、そろそろ出そうだ  
このまま中に出してもいいかい？」

「・・・うん・・・大丈夫・・・」

んっ♡











数分後







「あはっ、らっぱら眠てる♡もっ♡しゅ♡」

あと一回くらいなら大丈夫だよ♡



ドュ〜…

ドュ♡

ドュ♡

ん♡

ん♡



数時間後









「やだやだ休憩しないでもっとする♥  
もっと♥もっととおじさんとエッチするの♥」

「落ち着いた？」  
「うん……」

（良すぎて我を忘れてたなあ……  
はあ……さっきの自分は忘れたい）  
「飲み物とってくるよ」  
「うん……あれ？」





「ああその写真かい  
未練たらしく飾ってはいるが別れた女性だよ」

「別れたっていうか私の方が捨てられたんだけどね  
焦らし過ぎだと怒って出て行ってしまったよ」

（あー・・・）



「今は独り身で寂しくてね  
君が相手してくれてすごく嬉しいよ」



「ぶーん」  
(・・・)

ギュ  
／／



「あーっ。。。」

「明日も来ちゃう？」



おしま



































































































































